

2024 年度第 2 回

愛知県障害者施策審議会専門部会

会議録

令和 6 年 12 月 26 日（木）
愛知県障害者施策審議会専門部会

2024年度第2回愛知県障害者施策審議会専門部会 会議録

1 日時

令和6年12月26日（木） 午後2時から午後3時30分まで

2 場所

愛知県自治センター 6階 第602会議室、第603会議室

3 出席者

浅野委員、岩附委員、岩間委員、柏倉委員（部会長）、加藤委員、金政委員、中島委員、中原委員、中村委員、西尾委員、花島委員、古家委員

（事務局）

障害福祉課長ほか6名

4 開会

（事務局）

定刻になりましたので、ただいまから2024年度第2回愛知県障害者施策審議会専門部会を開催いたします。私は障害福祉課の高田と申します。議事に入るまで進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。開会にあたりまして、障害福祉課長の坂上から御挨拶申し上げます。

5 課長挨拶

（坂上課長）

皆さんこんにちは。愛知県障害福祉課長の坂上と申します。よろしくお願いいたします。

さて、本日は、今年度最後の専門部会となります。議題といたしましては、来年度の普及啓発事業につきまして、事務局案を提示させていただきます。また、報告事項として、今年度の取り組み状況を2件御報告させていただきます。委員の皆様におかれましては、忌憚のない御意見を賜り、実りある会議となりますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

6 会議の運営に関する事項及び資料確認

（事務局）

続きまして、当会議の運営に関する事項について御説明申し上げます。

本日の会議は、愛知県障害者施策審議会運営要領第二条第1項ただし書きの要件に当たらないため、第三条第5項の規定により公開としております。会議録等につきましては、県のホームページで公開いたしますので御了承ください。なお、本日の傍聴はございません。

次に、本日の資料の確認をお願いいたします。事前に皆様にお送りしておりますが、次第、資料が1から4、参考資料が1から2となっております。また、本日机上に出席者名簿、配席図を配付させていただきました。不足等がございましたらお申し出ください。

次に、会議の進行について御説明をいたします。本日の会議では、手話通訳、盲ろう者向け通訳介助員の方々に御協力をいただきながら進行してまいります。各委員におかれましては、発言の際にはマイクを御利用いただき、ゆっくりと大きな声でお名前御所属に続いて御発言いただきますよう御協力をお願いいたします。それでは以降の会議の進行につきましては、柏倉部会長にお願いしたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

7 部会長挨拶

(柏倉部会長)

皆さんこんにちは。部会長を務めさせていただきます桜花学園大学の柏倉です。よろしく申し上げます。

本日は報告事項が2件、議題が2件ございます。いずれも事務局から説明がありますので、それぞれについて皆様から御意見いただきます。円滑な議事進行に御協力をいただきますようお願い申し上げます。なお、検討事項について理解を深めていただくため、委員の皆様方におかれましては、言葉や内容について、わかりにくいときやもう少しゆっくり話してほしい時など遠慮せず手を挙げていただき、質問をしていただきたいと思います。限られた時間ではありますが、皆様から積極的に御意見をいただき取り組みの充実につなげていければと思いますので御協力をお願いします。

8 会議録署名者

(柏倉部会長)

それでは早速ですが、運営要領の第二条第5項によりまして部会長が会議録の署名者を2名指名することになっておりますので、私の方から指名したいと思います。今回は浅野委員、西尾委員にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

9 事務連絡等

(柏倉部会長)

それでは次第に沿って議事を進めてまいります。本日の会議の終了時刻は午後3時30分の予定となっておりますので、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

10 報告事項(1)「2024年度災害時情報連絡体制の市町村調査結果について」

(柏倉部会長)

本日は議事の進行上、報告事項から進めてまいりたいと思っております。

それでは初めに報告事項の1「2024年度災害時情報連絡体制の市町村調査結果について」、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

障害福祉課社会参加推進グループの鬼頭と申します。失礼して着座にて説明いたします。資料1を御覧ください。2024年度災害時情報連絡体制の市町村結果についてです。

災害時情報連絡体制の市町村調査については、前回の専門部会で調査内容について御意

見をいただきました。その後いただいた御意見を反映させた調査票により市町村に調査を実施いたしました。昨年度から動きのあった調査項目と今年度から追加した調査項目等を抜粋し説明させていただきます。

まず、(1) 同報系システムについてです。同報系システムとは、屋外スピーカーなどの屋外拡声装置と住宅等の屋内に設置する防災ラジオなどの屋内戸別受信機により、市町村から住民へ同時に一斉に避難勧告等の情報を提供するものです。障害者への配慮状況としては、屋外拡声装置及び屋内戸別受信機における配慮いずれも市町村数に変更はありませんでしたが、配布時の障害者支援について、刈谷市では支援利用する世帯が増えています。また、公共施設における配慮状況の有無についても変更がありませんでした。

次に、(2) その他の手段についてです。登録制サービスについては、実施市町村数に変化はないものの、すでに実施している市において昨年度より登録者数が増加している市があることがわかりました。また、新たに防災アプリを導入した自治体が3市ありました。ホームページについては、Webアクセシビリティへの配慮、ひらがな表示機能、やさしい日本語表示機能、災害情報・防災情報の検索に係る工夫を実施している市町村数が増加しており、引き続き配慮が広まっていることがわかりました。(1) 同報系システムと(2) その他の手段を比較すると、従来からある同報系システムは、新たに導入する市町村が見られませんでした。情報機器を用いたその他の手段は増加傾向にあり、SNSや防災アプリのような時代に即した手段が広がっている状況です。

続いて資料2ページ、(3) その他の具体的な配慮の取り組みについてです。新たな取り組みとして、清須市から登録制メールによる避難情報等の提供を実施している。豊根村から屋内受信機を全世帯へ無償で配布しているとの報告がありました。

次に、(4) 避難所における情報伝達手段の障害のある方への配慮についてです。今回の調査では、新たに障害者視認用アイテムの例示を調査票に加えたところ、新たに刈谷市と小牧市でバンダナ防災スカーフが配備されていることがわかりました。また、コミュニケーション支援のためのボードやカード等については、昨年度より大幅に増加し24市町で配備されていることがわかりました。その他にも知立市身体障害者福祉センターにおいて、アイ・ドラゴンが設置されたとの回答がありました。

なお、本調査につきましては、市町村によって回答基準に差異があり、記載が漏れている可能性があることを御留意いただきたく思います。今年度の結果を市町村へフィードバックし回答が充実するように努めてまいりたいと考えております。

最後に調査結果の傾向及び今後の取り組みについてです。ここまでで説明を行った各項目の状況から少しずつではありますが、着実に障害者への配慮が進んでいるという傾向が伺えました。また、避難所における情報伝達手段の障害のある方への配慮については、備えを進めている市町村が増加傾向にあることがわかりました。増加傾向にあるとはいえ、まだ配慮の体制が整っていない市町村が多い項目もありますので、引き続き同様の調査により市町村の取り組み状況を収集しフィードバックを行うことで各市町村における取り組みの検討がより活発に進むよう促してまいりたいと思います。説明は以上です。御意見御質問等ありましたらよろしくお願いいたします。

(柏倉部会長)

ありがとうございます。ただいまの事務局からの説明に関して御意見、御質問のある方はお願いします。加藤委員お願いします。

(加藤委員)

愛身連の副会長の加藤でございます。よろしくお願ひします。

この調査結果を見てですね、1つ思ひましたのは、今回御承知のように能登半島の地震がございました。その課題をずっと見ておりましたら、何が最初に困ったかということでもあります。まず、最初に情報が入らないということですね。それと誤情報が拡散されていて正しい情報が入手困難であったということ。それから2つ目に発災後に一定期間が経過しても市町村周辺の営業店舗、お店が開かずに被災者や支援者等に情報の入手が非常に困難であったというのが評価で書かれておりました。こういったことから、私がちょっと着目したのは防災ラジオです。携帯電話はほとんど使えないということが書いてありました。多分、混線したり電波がうまく繋がらなかったと思うんですけど、防災ラジオをちょっとそこで見ましたら、すごい効果があるということでもあります。1つはワイドFM放送というところだと思ひますけど、クリアな情報が聞ける機能が備わるとか、あるいはサイレンで生存を知らせる機能もついているとか、あとたくさんいろいろあるんですけど、例えばモバイルバッテリー機能を持った防災ラジオはスマホの電池がなくなった場合は充電する機能があるとかですね、様々な機能があることがわかりました。

この防災ラジオですね、やはりここに書いてありますように、対象者は結構みえるんですけど、実際あんまり使われてないっていうケースがございますので、もう少しこういったことも啓発をしていくといいなというふうにご覧になっておられて実感したわけがございます。私ども長久手市でもまだ入れておりませんのでね、今後私の方から申し入れしたいなと思っております。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございます。御意見ということでよろしいですかね。古家委員お願ひします。

(古家委員)

愛盲連の古家です。3つお話ししたいと思ひます。1つ目はアイ・ドラゴンについてです。アイ・ドラゴンが先進的な取り組みということで、まだまだ入れている市は少ないとのことでしたが、長久手市に先月末伺うことがありましたので、社会福祉協議会の方にこちらはアイ・ドラゴンが入っていていいですねとお話ししたら、それなんだっけという形の反応でした。ちょっと説明したら、なんか置いてあるね、誰か見てるのかなというような反応でした。せっかく装置を置かれていても、そんな反応ではちょっと残念なので、もう少し地域の方にも啓発していただけたらいいのかなと思ひました。

2点目ですけれども、避難所において障害者の方にスカーフであったり、私は視覚障害ですとか、聴覚障害ですというアイテムを用意していただいているところがあるようなのですが、逆に私は手話ができますとか、指文字ができますというものはどうなのかなって思ひました。避難所で気持ちに余裕がないとできないかとは思ひますけれども、そういう方がいらっしゃったら、それも有効な手段じゃないかなと思ひました。

3つ目です。大きな地震が起きると、例えば東日本でも熊本でも能登でもそうだったんですが、視覚障害者の場合は中央から日本盲人福祉委員会が支援に入ります。多分入ります。そこで地域の方、地域の事業所であったり、当事者団体、図書館などと連携しながら、救助支援をしていきます。そこで問題なのは、そういったところで登録している人は、障害

者手帳所持者の 2 割程度しかいないようで、避難所を歩いていても、なかなか見つからないということです。もし可能であれば、信頼できる団体と認めていただけるのであれば、もちろん個人情報保護法があるので、難しいかもしれませんが、各市町村の方でその名簿を見せていただくということが可能なかどうか。その辺も検討していただけるといいのかなと思いました。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。今お二方から御意見御要望がありましたけど、事務局の方で何かコメント等ありますか。

(事務局)

障害福祉課の鬼頭です。お二人の委員に関しまして御意見ありがとうございます。古家委員が申されました、アイ・ドラゴンの設置状況につきまして、ただ設置しているという回答だけではなく、どういう活用をしていくのかなど、具体的な取り組み方法なども調査票の方に記載できるのかというところは事務局として今後検討していきたいと思っております。その他の意見に関しましても、参考に取り組みを進めさせていただきたいと思っております。

(柏倉部会長)

はい。それでは、岩附委員からお願いします。

(岩附委員)

愛知登録要約筆記者の会の岩附と申します。障害者視認用アイテムの防災スカーフなんですけれども、私が在住している田原市でスカーフがありますので、今日は参考に実物をお持ちしました。明るい緑色です。黒字で文字とそれからイラストが書いてあります。これは支援を受けたい人と支援したい人が両方とも使えるような形になっています。スカーフですので半分に折って使えますけれども、片面に書いてあるのが「情報をください。耳が聞こえません」。もう片面には「筆談・手話します」と書いてあります。本当に軽くて、それから多分作るのもそんなにお金かからないのかなと思いますが、避難所で支援を受けたい人を探す、それから先ほど古家委員がおっしゃったような、支援する人はどうなんですかという件についても、この 1 枚でまかなえるというような工夫になっています。御紹介でした。

(柏倉部会長)

貴重な情報提供ありがとうございました。こういったものについても、参考にさせていただければと思います。中村委員お願いします。

(中村委員)

愛知県聴覚障害者協会の中村です。

報告を見ると、目で見える情報保障が増えたということでもとてもいいなと受けとめました。聞こえない人、聞こえにくい人の立場としては助かる内容です。1 つ意見として出したいのは、避難所のあり方の見直しも必要だろうというふうに考えています。聞こえない人、聞

こえにくい人の立場では、地域で集まりやすい場所という手話サークルというものがあります。市町村の中に最低1つは手話サークルというものもあります。大きい市になると、5つ6つ複数の手話サークルがあります。手話サークルをやっている場所には、ほとんど福祉センターのような場所で手話サークルの定例会みたいなのを開いています。福祉避難所というのは学区で決められてるとは思いますが、当事者として避難をするときには、家の近くの避難所よりも前から知っている人が集まっています。例えば、同じ聞こえない、聞こえにくい人たちが集まっています。手話ができなくて筆談が必要な人も含めて、盲ろう者の人たちも含めて一緒の場所に避難すれば、手話サークルにいる聞こえる人もいることからおたがいにサポートすることができると思います。避難生活をするにしても、そこだと安心感があるように思います。知らないところの学区の避難所に行って不安になるよりは、手話サークルの開催しているような場所を知ってる人がいるところに避難するというような考え方。絶対こっちという決め方ではないんですが、自分でどちらに避難をするかという判断選択ができるような場所もこれから増やしていくのが大切ではないかと私は考えました。そのことも含めて御検討いただきたいと思いました。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございましたとても重要な視点だなと伺っていました。特に市町村においてですね、そういった手話サークルなどの取り組みを積極的に行われてるところもございしますので、機械的に避難所を割り当てるのではなくて、そういう視点を持って、割り当てるようなことをまた市町村に促していただく、県からそういう視点があるということを出していただくと参考にさせていただけるのではないかなと思います。ぜひ、今後の取り組みに生かしていただければと思います。

時間が少し時間が来ておりますので、この件は最後に少しあれば戻ることも可能ですので、次の話題に移らせていただきたいと思います。

11 報告事項(2)「2024年度普及啓発事業の実施結果」について

報告事項2の2024年度普及啓発事業の実施結果についてお願いいたします。

(事務局)

引き続き鬼頭から御説明します。着座にて失礼します。

資料2を御覧ください。2024年度普及啓発事業の実施結果についてです。今年度の普及啓発事業といたしましては、交流セミナーの開催、コミュニケーション支援アプリの運用周知活動、市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナーの開催を行いました。これらの実施結果を御報告します。

まず1の交流セミナーの開催です。資料2の1ページ目、左側、今年度は発達障害を中心に取り上げ、ゲストや解説の構成もそれを踏まえたものとして実施しました。日時は、9月22日、日曜日、午前10時から午前11時30分までの1時間30分で、会場は名古屋駅からすぐのウインクあいち大ホールで開催いたしました。参加者につきましては、会場参加、動画配信ともに事前申し込み制としております。9月22日の会場参加者数は、定員400名に対して225名でした。358名から申し込みがありましたが、欠席者等がありまして、実際には225名の参加となったものでございます。また、動画配信には、定員100名のところ301名からの申し込みがあり、50名を追加当選といたしまして、昨年度と同数の150名の

枠を確保いたしました。10月24日木曜日から11月7日木曜日まで150名を対象として動画配信をしたところ、最終的な視聴回数は225回となりました。同じ1人が複数回視聴した場合もカウントされますので、対象者数を上回る視聴回数となっています。いずれにしても多くの方に御視聴いただくことができました。(2)のアンケート結果について御説明します。会場参加、動画視聴の合計375名の参加者のうち、199名の方にアンケートに回答いただきました。感想意見等においても、セミナー全体トークショーなどについて、好意的な意見を多くいただくことができました。資料の右側に移りまして、参加者の属性を見ますと、年代として、50名以上の方がおよそ8割を占めていることがわかります。これは、今回のゲストの小島慶子氏が一定の年代以上の方に知名度が高いという点が影響していると考えます。一方で障害のある方と関わる機会について、ある。たまにある。の合計がおおよそ7割となり、今年度は普段障害者と接する機会が多い方々の参加が多かったことがわかりました。これは、ゲストの小島慶子氏自身が発達障害であることを公表しており、自分の身近にも発達障害のある方がいるから小島氏から直接話を聞きたいという意見が見られました。続いて、セミナーの理解度や満足度については、障害者コミュニケーション方法についての理解が深まったかという質問に対して、そう思うという回答。セミナーが有意義なものだったかという質問に対しては、大変満足、満足といった回答が8割から9割を占めております。

続きまして、資料の2ページを御覧ください。2のコミュニケーション支援アプリの運用周知活動についてです。(1)運用につきましては、今年度は交通機関編の資料中の項目を追加いたします。現時点でまだアプリには反映されておりませんが、今年度中に追加予定です。(2)周知活動につきましては、県職員が集会などの場に出向くなどして県の施策について説明する県政お届け講座にて、民間の介護タクシー事業者の定例会に赴きコミュニケーション支援アプリの説明を行いました。今後も民間の事業者等から希望があれば、説明を実施していく予定です。交流セミナー及び市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナーにおいても参加者にチラシを配布いたしました。また、東海テレビ放送主催ふるさと一揆祭りにおいても、県の広報番組PRブースにて一般県民に向けてチラシを配布いたしました。

続きまして、3の市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナーの開催についてです。資料2の2ページ右側を御覧ください。11月22日金曜日、午後1時30分から午後4時30分まで。愛知県自治センター12階、E会議室にて開催いたしました。当日の配付資料は参考資料2にありますので、お時間がある時に御確認ください。参加者につきましては、37市町村から福祉部局職員33名、防災部局職員24名の合計57名の参加がありました。セミナーでは、第一部で講演、第二部で先進的な取り組み事例の紹介、第三部でグループワーク、最後に行政説明を実施しました。第一部では、専門部会委員の古家委員に、障害当事者の目線からの講演をいただき、第二部では、中村委員と認定NPO法人障害者放送通信機構の西田様から、先進的な取り組み事例の紹介としてアイ・ドラゴン4の説明をいただきました。字幕付きテレビのアイ・ドラゴン4を実際に投影する他、視覚障害者用のアプリを実際に使用して見せるなど使用方法も含めて説明いたしました。第三部のグループワークでは、障害種別ごとの困りごと、避難所でどのような対応が望まれるか、避難生活への合理的な配慮を生むための平時の課題などについて議論を行い、参加者同士での活発な意見交換が見られました。また、会場には、災害時要配慮者視認用バンダナ、ビブス、コミュニケーション支援カードなどの、障害者支援用のアイテムの展示も行いまして、多

くの参加者に目に留めていただきました。セミナーのアンケート結果については、講演の満足度について、大変役に立った。役に立った。といった回答が9割であり、障害者コミュニケーション方法についての理解が深まったかという質問に対しても、大変深まった。深まったという回答が9割を占めておりました。今回のセミナーで目標としていた、障害のある方々が災害時に避難所で必要な情報を得られやすくする取り組み等を紹介し、避難所における情報格差の解消を図ることについて、市町村職員の理解を深めることができたと考えております。また、当日不参加であった市町村に対しても、普及啓発を実施するため、県内市町村すべての福祉部局及び防災部局に対して、セミナー資料を電子データで送付いたしました。引き続き、県としては、市町村と連携して、災害時における障害のある方の情報格差の解消に努めてまいります。報告は以上です。

(柏倉部会長)

はい。ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明に関して、御意見御質問のある方お願いします。岩間委員お願いします。

(岩間委員)

はい。名古屋ライトハウス情報文化センター岩間と申します。よろしくお願いします。

1つ質問と1つ意見というところで、質問に関しては、多分前回の時も質問されたと思いますが、交流セミナーに関しての動画配信、当初100名のところ追加で150名になったということですが、人数制限がなぜされるのか。せっかく応募された方が視聴できないということは、ちょっと残念だなと思いました。それと視覚障害者に対する内容としても、司会進行の方がいろいろ気を使って、言葉の説明が時折入ってよかったなと思います。前回、無音の状態もいくつかあったのでこのあたりが良くなったということもありました。あと、せっかくYouTubeで動画を配信のに、私も確認していましたが、最初音楽は流れるんですけど、音楽が流れた状態がずっと続いている。ただ、これが何の動画かわからないというところがありましたので、このあたりもちょっと次回に向けて改善をお願いしたいと思います。もう1つ、市町村の職員向けのセミナーに関して、先ほどいろんな委員から御意見がありましたように、アイ・ドラゴンとか防災ラジオとか、その辺りせっかく予算を使っていろんなところで設置されている。それをせっかくこの市町村の方が使おうと思ったら使えない、知らないということがあってはならないと思います。なので、このせっかく市町村職員セミナーを開催した後、それぞれの市町村に戻ってそれを使えるようにしていただくということを先ほどのアンケートの取り組みに入れていただけるといいなと思いました。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。事務局いかがでしょうか。

(事務局)

岩間委員から御質問がありました。まず交流セミナーの動画配信の視聴数についてですが、動画配信を行うにあたりまして、諸経費等かかってまいりますので無制限にといいわけにはいかない中で、昨年度と同様の人数を確保させていただいたところでございます。続きまして、交流セミナーの動画の音声アナウンスのところでございますけども、

岩間委員と古家委員から御意見をいただきまして、音声アナウンスをなるべく入れ込むように努めてまいりました。御意見いただいたところに関しても今後改善していければと思っております。市町村職員向け避難所コミュニケーションセミナーの御質問に関しまして、実際に市町村職員が使い方を知らないというところが問題であるということについて、実際にどう使用するのかということまで普及啓発ができるように、県として市町村に今後取り組みを促していきたいと考えております。事務局からは以上です。

(柏倉部会長)

私から質問って変なんですけど、動画の配信の数が増えると予算がそんなに変わるのかというのは、もうちょっと具体的に知りたい。いろいろ国のシンポジウムなんかで私もしゃべることがあって、今は動画配信も当たり前なので、もう何千という数やるんですね。でないと全国だから到底行き渡らないということなんです。そこの予算はそんなにかかっているのかっていう話はあまり聞いたことなく、具体的に例えば100増えるとこんなに変わっちゃうんで困るんですよというようなことなのか。あとですね、岩間委員がおっしゃった、どうしても当事者じゃないとわかりにくいと思います。なので、動画を配信する前にせっかく委員がいらっしゃるので当事者で、例えば岩間委員に確認いただくとか、古家委員に確認いただいて、ここの無音状態はよくわからないから、何か入れたほうがいいのか。そういう当事者チェックというんですかね。こういうのもちょっとひと手間かかりますけど、これは逆にそんな予算ではなくやれるかなと思うので、その辺も工夫していただくと良いと思うんですけど、その動画配信ってどのぐらいかかるんですか。

(事務局)

視聴用の動画につきましては、Webで申し込みいただいてメールを返すというやり方ではなく、申し込みいただいた方々に郵送で動画の視聴用のURLを御案内するというやり方をとっております。そこに関連して郵送料とかの費用もかかってくるということに加えて、出演いただくゲストタレントの方の出演料の兼ね合いも発生してくるということです。

(柏倉部会長)

メールで送る手数料ということですね。それと配信の数が増えると出演者に対する予算も変わってくるということですかね。

(事務局)

そのようには聞いておりましたので、その問題もあるということです。

(柏倉部会長)

わかりました。公共の内容なので、特別にアクセスを制限するのですかね。県の予算だから、他県の人が聞いちゃいけないとか、その抽選に漏れた人が聞いてはまずい、そういう県の規則的なものがあるのでしょうか。

(事務局)

今回、委託事業者の開催イベントである中日健康フェアのフォーマットに則りまして、事業の開催と動画の配信を行ってきたところです。そのフォーマットの問題もあるかと思えます。今回いただいた御意見を開催の仕様に反映させるべきところとさせていきたいと思えます。

(柏倉部会長)

深掘りしてしまいまして時間使ってしまった。岩附委員お願いします。

(岩附委員)

愛知登録要約筆記者の会の岩附です。2つありまして、1つは動画配信についての今の話題です。やはり定員を増やしたとはいえ、301名の申し込みに対して約150名ということで半分の人が見られなかった。これは広く啓発したいという目的からすると非常にもったいないことだったと思っています。ぜひ、何かコスト的なところは何か工夫できるのではないかと世の中の動画配信を見ていると思えますので、今後の改善を期待したいと思っています。

もう1点は、私は当日に会場に足を運んで、実際の様子を見ました。座った席はですね、観客席の真ん中よりちょっと後ろあたりでした。文字情報ですね、引き上げ式のスクリーンが舞台の上に設置されていて、その前年のディスプレイみたいなもの比べると大きなものになっていて、会場の真ん中よりもちょっと後ろのところでも文字は見えるかなというような感じでしたので、改善はされているなということを感じました。また、舞台の上に大きく映像を表示するようないところがありましたので、方法としては例えばその画面を分割して、文字情報とそれから手話通訳者の映像を並べて見せるだとか、そういった実例というのは他のところでも見たことがありますので、こんな方法もあるということで、ちょっと参考にさせていただければというふうに思いました。動画配信の方に戻りますけれども、来年度の普及啓発セミナーは、またやり方が変わるというお話が後ほどあると思うんですけど。その中で録画の配信みたいな話が載っていなかったもので、これもやはり、会場に足を運べない人にも広く啓発する手段として考えていただければと思いました。以上です。

(柏倉部会長)

ちょっと後半部分の後で取り上げますのでそこをお願いします。ということで少し時間も来ております。また、私が時間使ってしまったって申し訳なかったんですけども、広く県民に普及という趣旨をぜひ生かしていただくような、取り組みをお願いしたいということで、次に移りたいと思えます。

12 議題(1)「2025年度普及啓発事業(交流セミナーの開催)」

議題1 2025年度普及啓発事業(交流セミナーの開催)について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

障害福祉課の久野と申します。以後、着座にて説明をさせていただきますのでよろしくお願いたします。それでは、資料3を御用意いただきたいと思ひます。

来年度の交流セミナーの開催につきまして、前回第1回の専門部会で委員の皆様からいただきました御意見を踏まえて事務局案を作成させていただいております。まず、1の事業実施方法につきましては、プロポーザル方式、企画選定という形で、事業者の方から内容を提案していただく形でその内容に基づいて業者を選定してまいりたいと考えております。2の開催場所につきましては、先ほど報告事項で御説明させていただきました。従来型ではなくて、来年度につきましては、集客面それから多くの県民の方に御覧をいただくということを考慮いたしまして、名古屋市内のショッピングモールの屋内イベントスペース等で開催を考えております。開催時期、時間につきましては、資料の3にございますとおり、10月または11月の土曜日、日曜日、もしくは祝日のうち、いずれか1日を予定しております。時間は午後開催を事務局としては考えております。参加者定員につきましては、従来、事前申し込みという形をとらせていただいております。これは会場の都合、あと選定業者の都合によるものでしたが、今回はショッピングモールのイベントスペースでの開催ということもございますので、事前申し込みは行わない形で実施をしたいと考えております。具体的な開催内容、事務局案でございますけれども、5番のところにとりまていただいておりますとおり、トークショーと障害者コミュニケーション手段の体験の2項目で考えております。まず、トークショーには、障害に関係のある著名人をゲストとして招きたいと考えております。これまでの交流セミナーでは、トークショーでは、令和4年度では聴覚障害、令和5年度では視覚障害、そして今年度は先ほども御報告させていただきましたが、発達障害と関係が深い著名人をゲストとしてお招きをしておりましたが、来年度は障害種別に関係なく、知名度があり集客が期待できる方をゲストにお迎えしたいと考えております。続きまして、障害者コミュニケーション手段の体験エリアにつきましては、こちらはトークショーと並行して設置をすることで、トークショーを観覧された方を体験エリアに誘導するなど、相乗効果を狙っていきたくて考えております。体験エリアにつきましては、事務局案といたしまして、盲ろう、聴覚障害、視覚障害に関するエリアを設置することを考えております。なお、この体験エリアの設置、運営につきましては、委員の皆様、また、御所属の団体の皆様方にも御協力をお願いすることになるかと存じますので、その際は御協力をいただきますようよろしくお願をいたします。また、体験エリア内には、障害の種別ごとにパネルなどを設置した普及啓発ブースも併せて設置をする予定としております。なお、資料にはございませんが、先ほども動画視聴の関係で委員から御意見をいただいておりますけれども、来年度のこの交流セミナー、ショッピングモールなどイベントスペース、要は不特定多数の方が行き来する場所での開催ということもございませぬ。映り込み等、映りたくないという方の配慮が事前に難しいということもございませぬので、開催場所、開催方法を考慮いたしまして、動画収録と動画配信は実施をしないという方向で事務局としては考えておりますのでよろしくお願をいたします。簡単ではございませぬが説明は以上となります。

(柏倉部会長)

ありがとうございます。2025年度の普及啓発事業について御説明していただきました。この件に関して、御意見御質問のある方お願をいたします。中島委員お願をいたします。

(中島委員)

最初のプロポーザル方式というのは、こちらからプロポーザルするのか。相手方がこういう風にやりますというのか。もうちょっと具体的にお話ししていただけますか。

(事務局)

御質問ありがとうございます。プロポーザル方式に関しましては、今御議論いただいておりますこの資料をベースといたしまして、大まかな内容はこちら県の方から提案をさせていただきます。例えばですけど、これで本日御了承いただければ、名古屋市市内でのショッピングモールでの開催。内容としてはトークショーと体験ブース、啓発ブースの設置。著名人を呼ぶことなどですね、基本的なところは御提示をさせていただきます。これに基づいて業者が、具体的にどういうところで、どういう内容で、誰を著名人として呼んで、どんな形で効果を狙ってイベントをするのかを御提案いただきます。ここで複数者提案がありましたら、その内容を事務局の方で見させていただきまして、よりよいものを選ばせていただくという形で進めさせていただきたいと考えております。

(柏倉部会長)

次の方、西尾委員お願いします。

(西尾委員)

日本ALS協会愛知県支部の西尾と申します。よろしく申し上げます。

こちらの資料3の体験エリアの種類とその内容は以下の3つを想定。想定する3つが挙げられているんですが、ここの中でもう文字版が入っておりませんし、あと参考資料2の方のグループワーク、36ページを拝見した場合に、グループワークのテーマとしても、やはり視覚障害、聴覚障害、発達障害、そして知的障害の困りごとということでもどうしてもコミュニケーションの中で文字盤等も必要とするグループワークも開かれていないと、人数が少ない障害の種別であるということ、どうしても3つしか駄目なんだよということであれば、これは総数の関係で割り切り切らざるをえないと思うんですが、もし可能であれば、文字盤等もエリアの場所的ないしは何か予算的な何かあるんでしょうか。そのあたりちょっと教えていただき立って質問しました。

(事務局)

御質問ありがとうございます。今回の資料を作成するにあたりまして、参考という形で、業者にお話を聞いております。実際問題といたしましてショッピングモールでイベントを開催する、トークショーでステージを作っかつブースを設置するという形になりますと、どうしても場所的な制約が出てきてまいりまして、この体験エリアのブースは、3つが限度であろうということ、今お話を伺っておりますので、事務局案としては3ブースという形で提案をさせていただいているというところでございます。体験エリアのブース以外にも、普及啓発ブースを設置する予定ということで先ほど御説明をさせていただきました。説明不足で申しわけなかったですが、こちらは体験エリアで設置する旨ろう、聴覚、視覚だけではなくて、それ以外の障害種別ということで、知的障害、発達障害、ALS、身体障害、それぞれの障害種別の啓発をさせていただく予定としておりますのでよろしく申し上げます。

(柏倉部会長)

ここにポスターみたいな形で置くのであれば下にも文字盤を使った写真とかね。それを掲示するような形であれば、その体験はできなくても十分こういうものがあるよということは何となく伝わるのでぜひそこは入れていただきたいなと思います。どうしても人数の少ない障害が省かれるというのはよくないので、多い人数の障害だけ取り上げられるという傾向は、国も含めてあるのでそれはなるべくないようにしたいなと思います。それでは、中原委員をお願いします。

(中原委員)

愛知県手話通訳問題研究会の運営委員長の中原と申します。よろしくお願いいたします。

この5の開催内容の案について、そのイベントの会社の方が提案をしてきたものを皆さんで選ぶのか。または、こちらからこういう著名な方を呼んでくださいというお願いをするのか。どちらかになるのかというのを聞きたいのが1点。それから障害者コミュニケーション手段の体験のところ、多分盲ろうのところ、指文字ではなくこれは指文字ではないかと思えます。盲ろうの方を差し置いて申し訳ないですけども、指文字ではなく指文字だと思えますが金政委員いかがでしょうか。以上です。

(柏倉部会長)

中原委員が質問に答えてほしいと思うので金政委員よろしいですか。指文字か指文字か。

(金政委員)

愛知盲ろう者友の会の金政です。資料の方に指文字と載っていますが、手のひら書きも含めて体験ができたらいいと思えます。指文字はちょっと難しいかと思えますので。

(柏倉部会長)

言い方が変わるので、必ずしも指文字ではないんですね、指文字とおっしゃってる方もいらっしゃるんですけど。なので今言ったようなちょっといくつかの例を挙げるような、表現に変えておいていただくといいかなと思えます。

あと中原委員からの質問のトークショーのゲストの選定は業者に丸投げでは困るというような趣旨だと思うんですけど、これはどういうふうな決め方なのかということをお願いします。

(事務局)

今までの交流セミナーの特徴もそうですが、これは業者から提示をしてもらって決めさせていただいております。今回不安になられてるのは、その障害種別に関係なくということで、誰が来るんだろうというところを御心配されてる上での発言かなと思っておりますが、予算の範囲内で呼べる方を業者に提案をしていただくという形になりますので、どんな方を呼んでくるかは基本的に業者が提案をする形になります。プロポーザルといいまして、企画選定でこういう内容でやるという形で提案させていただくのですが、そこに具体的な著名人の方お名前を載せてしまうと、その人ありきで提案をしていただかなければいけなくて、そうするとその方が幾らぐらいの予算が取れるのかですとか、スケジュールが空いてるのかというのが県の方では分からないんですね。そういうこともありまして、

誰を呼んでくるかも含めて、業者に提案をいただいているという形をとらせていただいておりますので、こういう人がいいという御意見があれば、この場で参考にお聞かせいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

(柏倉部会長)

結局ですね、同じ障害に重なったりすると良くないということを皆さん多分思っているんじゃないかなと思うんですね。それぞれの障害種別の代表の方が集まっていっているんです。これまでは、例えば視覚とか聴覚障害というところできてるので、そうではない人もぜひ呼んでほしいということが多分あると思うので。予算ありきでなくて、そこはやっぱり県としてお任せじゃなくて進めるべきだし、ただ今回こういったショッピングモールでやるということだから集客重視ということもあるんですよ。なので必ずしも障害種別にこだわった進め方はしてないって最初に説明があったので、そこも委員の皆さんは御理解いただくといいのかなということも思っているところですが、そんなことでよろしいですかね。ただ、今日こういう障害もぜひ呼んでほしいっていうのが声としてあれば出していただければと思います。それでは中村委員お願いします。

(中村委員)

愛知県聴覚障害者協会の中村といいます。ちょっと厚かましいお願いかもしれないんですけども、開催の日なんですけれども、少し早めに決めていただきたいと思います。なぜかという、来年11月東京でデフリンピックが開催されます。世界から聞こえない選手の人たちが集まりますので、愛知県の聴覚障害者協会からもボランティアとか手話通訳とかなど、東京、静岡などに派遣することも考えられます。もし11月に決まるということになれば、早めにこちらの協会としても、デフリンピックの支援に行く人とこちらの交流セミナーに行く人、支援する人を調整かけたいと思っています。こちらの要望としては10月に開催していただけるとありがたいというふうに思っております。デフリンピックは11月15日から始まります。しかし、1週間2週間前からもう世界の聞こえない人がどんどん集まってくるので、その時からもうボランティアは始まりますので、そのあたりも理解いただいて調整行っていただいて、早目に決めていただけるとありがたいというふうに思います。よろしくお願いいたします。

(柏倉部会長)

いろんな行事があるので全部埋めてくとなかなか難しいと思うんだけど、何人ぐらい例えば聴覚の関係だと来ていただくと良いという想定ですかね。最低ぐらいでいいんですけど。

(事務局)

障害福祉課の久野です。まだ想定ですが、大体1ブースあたり、2名ないし3名の方で御対応いただくと助かるかなと思っております。

(柏倉部会長)

今のデフリンピックのもう開催日は御提示されたので、その前に2週間は厳しいということ、2名ぐらいということをご情報としていただければいいかなと思います。他委員よろしいですか。古家委員お願いします。

(古家委員)

愛盲連の古家です。体験で、視覚障害は点字の文章づくりとありました。具体的にはもう少し詰めていくかと思いますが、点字の文章づくりは確かに説明と50音があれば多くの方は打てるかとは思いますが、ただ、ある程度分かち書きをしていないと、よみ手としては、息がつまります。文章づくりっていうよりも、単語であったり、逆に読みであったりの方が良いように思います。また、点字ではないですが、椅子の伝え方などガイドもいいかと思しますので、検討していただければと思います。

(柏倉部会長)

古家委員と岩間委員と相談しながら進めるとしますので御要望出していただければと思います。むしろその委員のこういうのがいいよっていう提案で進めれば良いと思います。それでは金政委員お願いします。

(金政委員)

愛知盲ろう者友の会の金政です。先ほどちょっと言いましたけれども、盲ろうの体験のところに内容なんですが、今指文字というふうに書かれていますけれども、今後友の会の方で一度ちょっと相談をして決めさせていただいて、愛知県の方に提案として出させていただきたいと思えます。それからもう1つ、セミナーの開催日のことについても、全国盲ろう者大会が10月24日(金)から26日(日)の3日間、開催されますので、できれば10月上旬、または11月上旬にさせていただきようと思えます。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。日程の情報も加味して、事務局の方で御判断いただけると思います。また、先ほどから出ているブースの体験エリア等の内容については、委員と相談の上、決めるということになるかと思えますので、また御意見出していただければと思います。それじゃ花島委員お願いします。

(花島委員)

愛知県自閉症協会つぼみの会の花島です。ショッピングモールをどこのショッピングモールにするのか、決まっているとやりやすいかなと思うのですが、ショッピングモールというのはいろんな障害種別の人もおそらくお買い物で利用することがあると思うので、そのショッピングモールで行われてる合理的配慮であるとか要するに例えば駐車場の障害者用の駐車場があるとか、点字ブロックで歩く。一応、決めているものとか、ショッピングモール内でどういう配慮をしているかという紹介も含めて、一般に来たお客さんが、あれ何であるかと思ったけどあそこに物を置いてはいかんのだなとか、あそこいつも物置いてあるから言ってやろうとかいうのに繋がるといいかなと。そういう提案とかをプロポーザルをやるときに、県の方が主導して、どういったメッセージを伝えたいのかという

ことで、講師の人というか、著名人も選定するときには業者の方が考えるっていうふうにはメッセージ性を県の方から出したいということがあります。ちょっとどの障害についてっていうのは、僕からは特にはないんですが、例えば、愛知県のイオンはやってないかもしれないですけども、曜日とか時間を決めて、音とか光とかをちょっと下げめにして、ハイリーセンシティブパーソン、ちょっと刺激に弱い人とか、過敏のある人とか発達障害の人が買い物しやすい時間帯を作るっていうのをやったところもあるし、先ほど言ったその点字のブロックとか、そういったものはどこも大きい商店ならやってると思うんですけども、そういう特に取り組んだことがあるものとか、その会場になるショッピングモールでの合理的配慮などの事例紹介を関連付けてやると効果的になるんじゃないかなっていうふうには思うので、もしできることだったら、県主導で提案というものを入れていただきたいなと思います。

(柏倉部会長)

ありがとうございます。とても貴重な意見だと思うんですけども、またそのあたりも会場側との関係もあるかと思えます。何かありますか。

(事務局)

障害福祉課の久野です。貴重な御意見ありがとうございました。まだ具体的にどこのショッピングモールでというところが決まっておきませんので、これからプロポーザルで業者に提案をしていただく形になりますので、今いただいた御意見を参考にさせていただきながら、企画提案する際の仕様の中に開催場所で行われている配慮との連携といった形で、何か県とコラボではないですが、関連付けた形でできるように工夫をしてみたいと考えております。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。ちょっと時間が超過しておりまして、次の議題をやった余ったらまた全体に振り返って御質問いただいたりできるかと思えますので、まず議題の2に移らせていただきます。

13 議題(2)「2025年度普及啓発事業(その他事業)」

(柏倉部会長)

2025年度普及啓発事業(その他事業)についてお願いします。

(事務局)

障害福祉課の久野でございます。資料4を御用意ください。ただいま御説明いたしました、交流セミナーの開催以外の来年度の普及啓発事業といたしまして、コミュニケーション支援アプリの運用周知活動、それから避難所における障害のある方へのコミュニケーション方法についての普及啓発のリーフレットの作成を予定しております。まず1のコミュニケーション支援アプリの運用周知活動でございますが、(1)の運用内容に記載のとおり、来年度は避難所の表示項目の追加を行いたいと考えております。追加する表示項目の例示につきましては、資料のとおりとなっておりますが、こちらはあくまでも例示となっておりますので、他に追加すべき項目がございましたら、本日も後ほどでも結構ですので、

委員の皆様方から御教授いただければと考えておりますのでよろしくお願いいたします。そして、2の周知活動につきましては、今年度に引き続きまして、支援アプリのチラシを活用した周知活動を中心といたしまして、県政お届け講座などの各種機会を通じて、支援アプリの周知を行ってまいりたいと考えております。

次に2 避難所における障害のある方へのコミュニケーション方法についての普及啓発リーフレットの作成及び配布についてです。今年度は報告事項でも報告させていただきましたとおり、市町村職員を対象としたセミナーを開催して理解を深めていただいたところでございますが、この避難所における障害のある方の情報格差を解消していくためには、実際に災害が起こった際に、避難所の運営に携わる自治会やボランティア団体など一般県民の方への周知啓発も重要となってまいります。このため来年度は、一般県民向けのリーフレットを作成いたしまして、啓発活動を行ってまいりたいと考えております。リーフレットにつきましては、2021年度に企業向けに作った小冊子、A5版の小冊子がありますが、これを参考にいたしまして、来年度作成するリーフレットもA5サイズ、8ページの小冊子の形で考えております。記載内容に関しましては、今年度開催いたしました市町村向けのセミナーの内容を踏まえまして、災害発生時避難所における障害種別ごとの困りごとと配慮方法について記載する予定としております。作成数、配布予定先につきましては資料を御確認いただければと思います。簡単ではございますが、説明は以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。2025年度普及啓発事業その他事業につきまして、御質問御意見等ありましたらお願いします。中村委員お願いします。

(中村委員)

愛知県聴覚障害者協会の中村です。リーフレットの作成について質問があります。文章書かれると思いますが、それについて、手話動画を作ってQRコードを載せるっていうような検討はされているのでしょうか。ぜひ、載せていただきたいと思っています。以上です。

(事務局)

障害福祉課の鬼頭です。リーフレットの記載内容につきましては、おっしゃられた手話の動画をQRコードに載せるということは技術的には可能とは思っております。現在、事務局で考えているのは手話のイラストの紹介のみでしたので、そこも踏まえて現実的に実現可能であれば、ぜひ取り入れてまいりたいと考えております。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。その他、この件につきまして、古家委員お願いします。

(古家委員)

愛盲連の古家です。何度もお話ししていますが、そのQRコードですが、視覚障害の人がどこにQRコードがついてるのがわかるような、触ってわかるような印をぜひ考えていただきたいです。

(柏倉部会長)

何か事務局でコメントありますか。

(事務局)

障害福祉課の久野でございます。御意見ありがとうございます。勉強不足で大変申し訳ないのですが、県の方で音声コード、Uni-Voice 等に関しましては付けるときに切り込みを入れる形で対応させていただいているのですが、QRコードを載せる際に何か目印となる、切り込みを入れるですとか、どの位置に入れるかというのがもしありましたら、教えていただければ対応可能かと考えております。

(柏倉部会長)

岩間委員、古家委員そういった他の事例があったら紹介していただけると、実現に割と早く結びつくと思うんですけど、こういうところから出ているパンフレットはこんな工夫があるよというのがあればお願いします。岩間委員お願いします。

(岩間委員)

名古屋ライブハウス情報文化センター岩間です。今回のリーフレットに関してこれはUni-Voice で聞けるようにUni-codeを入れるというイメージですかね。もしくはもうQRコードで何かどこかに飛べるようにするっていうことも含めて、そのリーフレットに入るということですかね。ちょっとこの辺りをまず確認させてください。

(事務局)

障害福祉課の久野でございます。事務局で考えておりますのは音声コードを付ける形で冊子は作らせていただこうかと考えております。

(柏倉部会長)

QRコードは使わないということでしたら、先ほどの切り込みそのUni-codeの切り込みを入れてUni-Voiceで確認できるようにということではそれでもいいと思います。

(事務局)

基本的には音声コードを付けさせていただくのですが、音声コード以外の手段の配慮という形でQRコードを付けるということであれば、スペースの場所にもよりますが掲載は可能ですが、ただそのQRコードがここにありますよという目印を音声コードとは別に付けなければいけないと思いますので、もし何か良い事例等があれば後ほど結構ですので、教えていただければ検討させていただきたいと思っております。

(柏倉部会長)

僕も一応この分野は専門なんですけど、あんまりQRコードにこういう触察できるようにして、そこにあてるっていうことは事例あんまりないと思うんですね。そこがわかっても、そのQRコードを読み取るっていうのは視覚障害の方は大変困難なので、そのためにUni-codeを多分作ってると思うので、そちらで御対応いただくということでいいかなと思うんですけども。岩間委員と大体同じ意見なんですけど。そんなことでよろしいですかね

古家委員。QRコードの位置を触察できるような、何か他のパンフレットで見たことがあるなら教えてもらいたいですけど。

(古家委員)

今回のこのリーフレットに関してはそれでいいかもしれませんが、社会を見てるとあちらこちらにQRコードがついています。ここにQRコードありますよという何か印を統一していただかないと、私たち遅れてしまいます。確かにカメラで読み取って云々って難しいかもしれませんが、コツを得れば大丈夫なものもあります。私が今まで1つだけ見たのは、QRコードの周りが四角く触ってわかるような点々がついているものでした。何か良い印はないでしょうか。

(柏倉部会長)

国の方が何かこう運用基準で例えば切り込みをさっき話ありましたけど、その付近の角に置くとかね、なんかそういうのを決めてもらわないと自治体単位では難しいと思うので、今回の話は重要な指摘だと思いますので、また心に留めていただいて、機会があったらそういう検討もぜひお願いしたいと思います。

その他いかがでしょうか。お願いします。

(中島委員)

先ほど、来年度の交流セミナーの日程のことでお話があったんですけど、デフリンピックの関係でお話がありました。東京でデフリンピックはこれ初めてですかね。それであれば例えば今デフリンピックやってるよと。ショッピングモールだったら、やっぱりパラリンピックに比べて認知度低いと思うんですデフリンピックは。ですから例えば11月15日の土曜日にデフリンピックが始まって今日から始まりますよと。今やってるよというそういう選択肢はございませんでしょうかという質問です。

(柏倉部会長)

御提案と質問といいますかね。いかがでしょうか。

(事務局)

障害福祉課の久野でございます。実際にいつ開催可能かというところに関しましては、実際に提案を受けてみないとわからないというのが正直なところでありまして、資料にもございますとおり10月または11月の土日祝日で提案をいただく形にしております。著名人の方のスケジュールの関係ですとか、あと先ほど中村委員からもお話がありましたし、金政委員からもお話がありました。所属されている団体の全国大会などで人が取られてしまうということもありますので、ちょっとバランスを見ていく必要があるかなと考えております。ただ、デフリンピックの啓発PRということに関しましては、これも業者がどこまで受けていただけるかにもよるのですが、やれないことはないかなと考えておりますので、デフリンピックの開催と併せてこちらのイベントをやって、デフリンピックの周知をやっていくということに関しては、事務局の方で預からせていただきたいと思います。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。この議題は一応終わったというんですかね。御質問は特にないようですので、前の議題 1 とか、それから報告事項のところも含めてまだ言い足りないというところありましたら手短にお願いします。西尾委員からお願いします。

(西尾委員)

A L S 協会愛知県支部西尾です。今回通して避難所のコミュニケーションというところがテーマかと思います。ただ、参考資料 2 の避難所、これを福祉課がまとめているところの第 1 に名古屋市内の人口に対して避難所は 1 割未満、これだけしか補えないんだよと。そうした場合には行きたくてもいけない障害者は当然出てくると思います。それがまず 1 つ考えるところで、どういうふうなこのまとめをしたのかっていうところは興味深いところでは。それに対して、1 つどうしても言いたいのは、海拔ゼロメートル地帯。名古屋の南部から三重県の長島あたりまでずっとかけてですね。どうしても避難せざるを得ない人たちが避難所に行く。その時にやはり 1 割程度の人しか避難所に入れない。これは障害者にとってはかなり厳しい問題です。今回のテーマは避難所でのコミュニケーションということで、避難所に行けないような方々のそのアドバイス或いは避難所に向かうまでの道のりのアドバイス。いろいろなことを工夫している市町はないんですね。それと、この表はあまりこう代わり映えしないような、参考資料 1、この中で特にゼロメートル地帯の市町こそいろいろアドバイスをして避難所のコミュニケーションを充実させるということが大切ではないかなと思うんですが、それ以外の結構豊かな市町がこれは工夫を凝らしてこういうことやってるよってというような形になってる気がするんです。その辺をこの審議会で意見を出して、それで何らかの形で繋がればいいなと思って要望をしました。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。それでは岩附委員お願いします。

(岩附委員)

愛知登録要約筆記者の会の岩附です。来年度の交流セミナーですが、動画の方は映り込みの心配があるということと、申し込みなしの方式でやるので、動画配信は難しいという事情だと理解しました。トークショーのところだけだとか、あるいはコストと申し込みなしということで、もうフリーに配信してもいいというようなゲストの方を選んでいただくとかいうような工夫もあるかなと思いました。あとはショッピングモールということで、場所にもよるんですけども、宣伝もできるだけこのショッピングモール近辺の方だけではなくて、できるだけ広い地域からも行ってみようと思えるような宣伝の方法を考えていただければと思いました。以上です。

(柏倉部会長)

ありがとうございました。岩間委員お願いします。

(岩間委員)

岩間です。すいません先ほど岩附委員からもちょっと重なるんですけど、私がちょっとこだわってるのは動画っていうところがあるんですが、先ほどちょっと話で、映り込みっ

であるんですけど、これはステージを録画するというので、何かこう工夫してできるんじゃないかなと。その辺りもプロポーザルのところで入れられないのかなと思いましたのでお願いします。

(柏倉部会長)

以上 3 件、御要望等がございましたので、ぜひ次の普及啓発の取り組みに反映をお願いしたいなど。ショッピングセンターだから、後ろ歩いている人とか映っちゃうとかそういうことなのかなと思うんですけどね。そもそもこの委員の皆様から、ショッピングセンターみたいなところで、普段買い物に来ている人が遭遇して、こういう機会にあたるというのをやってほしいというところから来てるので、そこもぜひお含みおきいただくと、それで事務局はこういう企画をしたということなんですね。そうすると日頃、障害のある方に接してない。買い物の機会に何これっていう感じで来た人が実はターゲットになっているということもありますので、そこもぜひお含みおきいただければと思います。

それでは時間過ぎてしまいましたので、まずは議事を終了ということでお願いしたいと思います。御協力ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

14 課長挨拶

(坂上課長)

柏倉部会長ありがとうございました。本日は委員の皆様貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。いただきました御意見を参考に取り組みの方を進めてまいります。先ほど言われたその動画につきましても、完全なオープンなところであれば確かに後ろに映り込みになると思うんですけども、例えばちょっと後ろに壁があるようなステージみたいなところがあれば、動画も撮れるのではないかと思いますし、その辺はいろんな提案を見て、また考えてまいりたいと思います。今日御協議いただきました内容につきましては、柏倉部会長の方から 3 月に開催予定の第 2 回愛知県障害者施策審議会にて御報告いただく予定としております。また、今年度の専門部会は、本日で予定をしていた 2 回の会議を終えますけれども、県の取り組みについてお気づきの点がございましたら、終わった後でも、後日でも結構ですので御意見をお寄せいただければ幸いです。こちらとしても、できるだけよりよい事業にしてまいりたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。今後も委員の皆様御意見を伺いながら、手話言語の普及、障害の特性に応じたコミュニケーション手段の利用促進の取り組みを進めてまいりますので、引き続き御指導御協力をよろしくお願いいたします。

以上で、2024 年度第 2 回愛知県障害者施策審議会専門部会を終了した。